京城新報

●新聞料 ▲一部一錢 ▲一ヶ月金[illegible] ▲六ヶ月[illegible] ▲郵税一ヶ月金[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 五月十二日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三番

宮相李允用（五）

翠山生

▲權謀權變に長じ狡智に富んで居る彼れと雖も此の圖らざる王妃事件に就ては一方ならず落膽したが併し事變に至つてはイザ仕方がない何んとか之が勢力發展の挽回策を講せねばならぬ所から前にも述べた通り彼の李範晉等と共に露國公使ウエバー氏の麾下に參じ額を鳩めて種々と劃策するところがあつた、サテ此の李範晉なるものゝ人物は讀者も豫じめ知つて居る通りヤハリ彼れ允用とは同轍型の性質で飄輕陰險そうして油斷も隙もならぬ人物であるツマリ允用とは宜い相棒で又は類を以て集まるとの諺通りである、

▲所で彼等一味の腹黑き計畫は時々刻々其の歩を進め果てはいつ何ん時其の三寸の胸中に熱して居る、秘計密謀の緒を切り開ひても差し支ねなき時機となつて來たのである、妖雲邪氣陰暗として天地に迷離して居る當時の政界の風雲は果して何のやうに轉變し行くものであらうか、

▲而して彼等一味の計劃に就ては敢て愛に述ぶる必要はないがマヅ其の第一着手としては畏くも皇帝を露國公使館に潜行せしむることであつた、勿論時の金內閣は全閣員擧つて日本側であるから彼等の居る所で事を決行する譯には行かぬ、依て彼等は皇帝を他に擁して大義名分の旗幟を明かにする必要があつた、尤も其の際完用丈は臣下の身分として皇帝を他に擁すといふことは聊か穩かならぬ行爲であるから此の議は絕對的に見合はすがよからんとの意見を挾んだが[illegible]の効なく却て其のやうな弱き腰[illegible]で此の大事件が成立するかと一[illegible]二もなく刎ね飛ばされて了つた、

▲斯くて皇帝潜行問題は愈々實行された、時は丁度明治二十九年二月十一日の拂曉……漢城の天地は霜に凝つて氣寒く、人は皆曉の殘夢に濃やかなるの時であつた、而して皇帝の潜行が濟むや否や彼等は即時に新露國公使館內に於て內閣を組織したが其の顔觸れは即ち斯うである、總理大臣[illegible]陽、內部大臣李範晉、外務大臣李完用、軍部大臣李允用、農商工部大臣趙秉稷、

▲允用は軍相の位に完用は外相の地位に範晉は內相の椅子にソレ〳〵辷り込んだが、サ此れから、彼等が平素の野心を逞うせんとする經綸蠢動きである、然るに此の二月十一日、倏忽として政界の局面が一變すると同時に容易ならぬ騷動が持ち上つた、开は何んであるかといふと讀者も豫て承知の通り金內閣の閣員の中金總理と農商工部大臣趙秉夏とが何事をも知らず常の通り內閣に出勤する際途路に於て何者の爲めにか暗殺されたことである、此報が傳はるや否や京城中は、まるで鼎の湧く如く人心兢々として其の堵に安んじない、現に泥峴邊の日本人は何時でも安全の地に落ち延びらるゝやう鞋迄も穿いて準備して居つたのである、而して軍相趙義淵、法相張博の兩人は此の噂を耳にして泥峴の日本人の家に其の影を隱して了つた又內相俞吉濬は途中にて將に要撃されんとする所を我國の守備隊の兵士の爲めに幸ひにも一命を取り留めたトニカク當時の漢城の天地は殺氣暗憺腥風四邊に滿ちて居つたのである

▲……吁々彼れ李允用、彼れは確かに權謀に富み術數に長じて居る一種の政治家には相違ないが之が將來は果して完全なる成效を見るであらうか（了）

●四月韓國氣候概況（續）

●風 平均速度は釜山より龍岩浦に至る沿岸一帶の地に於ては約六米乃至七米にして城津の四米余を除きては內陸及東岸の各地共概ね三米以下なりし暴風日數は既往に比すれば釜山、木浦、仁川の各沿岸地方は何れも多く釜山の如きは殆んど二倍に達せり而して最大風速度は九日釜山に於ける二十三米（北東）に次て二十三日木浦（南）及び龍岩浦（南東）の二十一米なりし

●天氣 ●降水日數は南部一帶の地方にては十日以上に達したるも其他は三日乃至八日の間にありて殊に中部より北東部に少なかりし而して降雪は平壤地方の一日を除くの外各地は全く終を告げたり●快晴日數は十日に達したる所あり概ね六日乃至八日にして木浦は最少にして四日なりき既往に於ける雨天及快晴日數を見るに前者は本年の方南岸及び北部に稍多く中部に稍少なくして後者は東海岸に殆んど同樣なりしが西岸は本年の方稍少なかりし●日照時數は釜山の四十六（百分率以下之に準す）より城津の七十の間にありて中部及北東部地方に最多を占む●濃霧は仁川の三日元山城津の各一日にして其他に於ては皆無なりし●霜は南部岸地方に終を告げたるも北部に於ては尚ほ多く龍岩浦の如き十二日の結霜を見たり

○俳句

むら

酢の匂ふ鮓の茶屋や心太
青東風の辷り込んだり琵琶の湖
水を飼ふ馬の尾筒や青鼠
隣る家の青簾にして明け易き

小說 新不如歸（三十二）

篠原嶺葉著

百合子の物語を聞いて敏男は、事の意外に驚いたけれど、滿足の色はます〳〵滿面に現れて、

「そりやどうも不思議だね、一昨年の春氷川の勝伯の橫の坂の途中で逢つたつて、私其時奈何して居たんだらう、百合さん程の美人と逢つて目に着かんと云ふ理はないが實に不思議だ。」

と、首を傾けて其當時を追懷するのである。

「いくらお考へなすつても兄ですわ、貴方は鶯が宜い聲を張上て啼いてたのを夢中になつて居でなすつたのですもの。」

「道理で、いくら何だつても、見た限りは其まゝに置かう理が無いと思つた、では眞個百合さんも私の事思つて居て下れたんだね、して見ると私が此間地藏の縁日で見出したのも、乾度神樣の引合だつたんだらう實に不思議な事もあるんだね、然う聞けば此間私が始めて百合さんの家へ行つた時取次に出た時の顔が奈何も可怪と思たよ」

「私甚麼顔致しましたらう、今思ひ出へるさ必然何だらうと思ふて、本當に恥かしうございますわ」

「甚麼顔して、其美しい顔をパット赤くして、言ふに云へない優しい顔見せるんだもの、未だにあの時の顔は忘れやしない。」

「どうして貴方は優しさうな顔して、那樣にお口が惡いでせう……あの時こそは眞個私吃驚したんですもの」

敏男は愉快さうに笑みながら、

「では、何の爲に來たかと思つて」

「それは何とも考へが及びませんだけれど只もう出て下すつたのが嬉しくつて私夢中で致しました。」

「では、お兄さんから斯樣々々と話があつた時は吃驚したんだらうね。」

「吃驚した所ぢやございません、恥かしいと嬉しいとで眞個夢中でしたから能くは覺えて居りませんけれど、あんまり嬉しくて返事は夢中で致しました。」

敏男は益々滿足さうに、

「私が歸つた後で、嘸皆んなで笑つて居なすつたらうね。」

「母樣も兄樣も、道樂な嫁さん貰ひは始めてだつて、大層笑つて居られました。」

敏男は高く笑びながら、

「それは然うだつたらう、自分ながらも後で考へて見ると隨分亂暴な話だと思つた。」

「ですけれども貴方が御自分で入して下すつたからこそ、恁う云ふ嬉しい境涯になりましたけれど、他人をもつてお話下されば恁う云ふ境涯には迚もなれなかつたのでございます。」

「それは又奈何云ふ理です。」

「貴方のお顔見ましたから、貴方と云ふ事が解りましたけれど、お顔こそ片時忘れず覺えて居ましたけれど、貴方が尾花さん有仰いますか、何と有仰いますか、お名も存じないですもの、他の方が被入やいまして、尾花から頼まれて來たと有仰やつても、私は猶且貴方と知らずに斷つて了うのですもの、そうなつたら恁う云ふ嬉しい境涯にはならないでせう。」

「成程、して見ると、猶且私が出掛て行つたのが宜かつたのだね〳〵〳〵」

京城新報

逢に曾根副統監に寄す

兎烏矢よりも急なり、閣下の歸東せられしは昨今と思ひしに早や月餘に及ぶ、在留邦人の閣下の歸任を待つや眞に迷へるものが豫言者の來るを待つが如し、閣下も亦多幸の人なる哉、然れども閣下誤解すれ勿れ、在留邦人が閣下を待つ所以のものは閣下の人格を慕ひ、閣下の手腕を信ずるが爲に非らず、閣下が歸東後の言動は意外に人意を强ふするものあればなり、而して不得要領なる顏容と沒趣味なる聲音の裡には之を實行するの勇氣あるかの如く信ぜらるればなり、閣下の對韓經營を鮮明に進張せらるゝ勇氣ありと思はしむればなり、豈夫れ他あらんや。

閣下の行動は手に取る如く、東都の新聞紙に依りて審にせらる、閣下の昨今は例に依りて多く片瀨の別莊に悠々閑臥し、江の島稻村ヶ崎の風景、渺然たる芙蓉峰を眺めては、塵世を忘れ詩興自ら涌く、之れ眞に浩然の氣を養ふものなり、閣下も亦多福なりと云はざる可らず、閣下が都門の塵界を離れて片瀨の閑村に浩然の氣を養ふは、歸任の上大なる勇躍を試みらるゝ爲なりと解釋するも强ち不當に非ざるべし、何となれば閣下は東洋協會歡迎會の席上に於て左の如く述べられたるに非ずや。

余が一年有半の經驗に依れば將來韓國に於て經營すべき事業甚多し余の諸君に希望する所は一旦踏出せば一步も後に退かぬ事なり余既に此決心を以て韓國に臨む願はくば諸君も此意を諒して余の事業を贊助せられんことを云々

と意氣言外に溢る、暗に他日統監たるの意を暗示せるものと思はしむ、韓國經營の胸算既に成るの概を示せるものならずや、在留邦人が閣下の此演說を以て閣下が歸任の上雄々しき行動あるべしとするは敢て無理ならずや、閣下を賴母敷思ふて其歸任の早からむことを待つは之が爲なり、余輩は閣下が伊藤公の麾下に屬する中は到底其自由の活動を爲し能はざるべしと思ふ、閣下が從來の行動に徵するも、伊藤公を前に置て御機嫌に頓着なく自己の意志を實行する程傍若無人なる能はざるなり、然れども閣下の胸裡には活火の炎々たるものあらん、破裂して半島の野を燒くは何れの日ぞ、閣下は頃日山縣公を片瀨に招待し而も公を一泊せしめ、談笑の間に韓國今後の施設を協議せしならむ、桂侯とは疾くに妥協ひしや知るべきのみ、既に山桂の後援あり、閣下自身の抱負を實行する決して難事にあらず、所謂閣下の不言實行を見るも遠からざらん、併し閣下は韓國經營に就ては未だ全く未知數なり、閣下の眞價は將に是より問はれんとす、閣下希くは勇以て其眞價を發現し、閣下を豫言者若しくは救主の如く思へる邦人をして失望せしむる勿れ。

●漢城便り

▲觀察使會議の結果觀察使の多くが統監政治に蓋すの客なる[illegible]郡守の多數が統監政治に對し不平不滿なることを明瞭に知るこどを得たりとは御用紙セウルプレスの報するところに御座候郡守等の不平不滿は彼等が誅求の武器たる司法權と徵税權とを失ひたるに起り候事は[illegible]觀察使會議を俟たずして世人の已に已に知るところに有之候

▲今の觀察使郡守中には其任命に付統監閣下の御聲掛りの分も多數有之候との事に御座候是等の輩の向背は如何統監の德彼等に及び居候や否やは是非共承知致度ものに御座候

▲敢て統監の思召によるとは不申候得共新任內相宋秉畯は近日を以て排日的地方官の大淘汰を行ふとの事に御座候伊藤公を知るものは宋一人に有之候宋は公の爲には身命を擲つて働くべき義理も不義理も有し居候

▲ドコまでも打算なるは李完用に御座候矢表に立つて功名を恣に爲し得る場合には何時も蹄德を守り宋秉畯に讓り申候地方官大淘汰の事一度手せば韓民擧つて內相閣下を謳歌するならんと被存候

▲或人申候半島今日の秩序潰亂は軍政を撤廢するの一ヶ年早きに失したるの罪なりと記者も之には同見にて又何人と雖も一言辨駁の辭を有せざるべしと存候

▲ステープンス君渡後內閣は其顧問を欠ぎ居候此卒椅子の活用は是非共ス氏以上の人物に依つて爲さしめ度ものに御座候幸に目賀田男爵は今以て閑散の地に在られ候との事に御座候

▲漢城園藝協會は愈成立致したる由に御座候園藝趣味の普及は獨て當殖民地の氣風を向上せしむるに與つて力あるべしと被存候

▲居留邦人間に基督教青年會創設の企ある由及開中候居留民有機体の進歩は種々の機關に相待ち申候

東京電報

▲未曾有の降雹

今日午後十五分間に亘り當地未曾有の降雹あり大なるは直徑二寸に及び屋根を打つ音耳を聾せん許りにて間ゝ負傷者あり硝子天井は總て碎け其の他被害多し

▲選擧法違反者

內務省の調査によれば選擧法違反者の累計は金錢贈與三百五十件二千三百五十三人暴行九件十五人代理投票五十一件八十二人にして合計四百十一件二千四百五十人なり

▲本年の麥作

農商務省の報告によれば本年の麥作は一般に良好なりと云ひ雖きも被害多大ならずして收獲豫想高二千八十一萬五百餘石にして前年より六步一厘減せしも平年より六步四厘の增收の筈なり(以上八日發)

雜報

●皇帝の展拜

皇帝皇后には本日毓祥宮延祐宮宣禧宮景祐宮を展拜あらせらるゝ旨仰出さる其御道筋は左の如し

十日午前十一時敦化門より出御錦朝橋鐘橋鐘路黃土峴光化門前路西十字閣迎秋門前路石隱橋金華門前路に從ひ毓祥宮延祐宮を展拜あらせられ毓祥宮前路新作路小石橋新橋に從ひ宣禧宮を展拜あらせられ宣禧宮前新橋孝谷紫霞に從ひ景祐宮展拜あらせられ午前四時三十分に還御あらせらるべし

●伊藤統監の謁見

伊藤統監は本日午前十一時目下上京中なる步兵第二十五旅團長丸井政亟氏以下十八名を同伴し昌德宮に參內し謁見せらるゝ筈

●參與官會議

昨日午前一時より統監府樓上に於て參與官會議を開催せり

●大臣會議

昨日午後一時より大臣會議を伊藤統監邸に開き各大臣出席統監以下各參與官列席したるが地方行政に關する重要なる問題ありし模樣なり

●宋內相の施政意見

新內相宋秉畯氏は地方行政改善の第一着として新制度を解せず新智識を有せざる觀察使六七名を免官して此れに代ふるに新進の士を以てし郡守は漸次に地方人の輿望ある者を觀察使をして推選せしめて任命する事とし面長里長等は郡守をして任命せしめ地方行政に關しては中央より干涉する事を止めて地方官吏に責任を帶ばしめ以て行政の改善を圖る方針にて觀察使更任に關しては八日の閣議にて略決定したる筈なりと云ふ尙同大臣は地方の民情を視察し且つ地方官廳の現狀を巡視するため過日の觀察使會議に於ける幾多の訓示が各地方に行屆きたる時機(七八月の交)を以て全國各地旅行の途に上るべしと云ふ

●觀察使の辭表提出

咸北觀察使尹孝炳忠南同梁在顯咸南同韓南奎全南同金奎昌四氏は何れも八日辭表を提出せり而して四氏が共に一進會員にして無能の聞へありしと別項宋內相の意見とを對照せば蓋し思中ばに過ぎん

●一進會の蠢動

去る六日一進會の重立ちたる者數十名は內田良平氏を昌德宮後方の西氏別莊に招待し何事か凝議せし模樣なりしが越へて八日李會長以下總務委員等二十餘名內田氏邸に參集し數時間に渉りて密議の結果何事か決する處あるもの〻如し一進會果して何事を目論見つゝありや暫く記して後日に徵せん

●漁業法と水產稅

農商工部は別項記載の全國水產調査の結了すると共に漁業法を制定發布する筈なるが元來漁業は免許漁業即ち一定の地域を制限して專漁區とし其の漁業權を一個人或は一團体に特許するもの及び許可漁業即ち一種の漁獲法に依り一定の漁具を使用して漁業に從事するを許すもの及び屆出漁業即ち簡單なる漁獲法により地域を定めず漁業の屆出に對し鑑札を下附して從事せしむるもの〻三種に區別する事を得此の區別に從ひて免許を與へ許可し及び屆出をなさしめ以て其の保護を與へ取締をなすは最も良好なる方法にして免許漁業に關しては一種の權利を特許するものなれば中央機關たる農商工部此れを取扱ひ許可漁業に關しては地方機關たる觀察使をして此れを取扱はしめ屆出漁業に關しては郡守をして此れを處理せしむる事とせば極めて便宜なるも現今の地方行政機關は未だ此等の事務を處理するの設備なく左りとて以上の三者を悉く中央にて直接取扱ふとせば事務の煩雜を來し且つ地方從業者の不便甚しかるべく當局者は韓國の現狀に適合すべき法規を制定するに大いに苦心し居れりと云ふ尙漁業法の制定に伴ひ水產稅則改正の必要あるべく就ては漁獲高に對してのみ課稅する現行法は一見公平なる徵稅法にして而かも極めて簡便なるが如きも諸種の漁業に對して同一の率と同一の方法を以て課稅するは却つて公平を失し且つ脫稅の弊ありて既往の經驗は僅かに此れを證明せりと信ず余輩は當局者が扣上の空論に走らず一面には產業の發達を保護し一面國庫の收入の確實を得るに適當なる稅則を制定せん事を望む

●江界地方の狀況(承前)

其他殊に賊徒出沒地方に至りては大に軍隊の駐屯を希望し居れり漸次歲月の經過と共に我官憲の眞價を知らば一般人民は必らず我に信賴するの念を惹起するものと確信せらる已に從來賞の驗に因るも漸次我に靡くの傾向ありと云ふ又郡內各面に於ては孰れも團長一名部長數名にして會員若干名より編成せられありと雖も有名無實の者多く實際不時の場合に於て直に軍隊に報告する如き適當の處置を取る者甚だ少なく尙之に强固なる基礎を作らしむるの餘地あるを認めらる又衛生上清潔實施に就ては警務部に於て專ら巡檢をして之が實施を促しつゝあるを以て通路及び檢せらるゝ範圍內は種々清潔に行はれ居るが如きも一度各家の構內を窺へば至る處に塵芥散亂し殊に便所牛馬房の附近に糞便堆積し居るの狀況なり之れ韓國古來の風習とは云へ官吏と雖も自由に民家の構內に立入る能はざるが爲め自然行屆かざると一は人民に個人衛生の思想なきに原因するなるべし殊に傳染病の取締に就ては未だ何等の施設なきもの〻如し天然痘患者三名を目擊せり目下他に傳染病なしと雖も聞く處によれば年々多數の赤痢腸窒扶斯病流行し之に斃るゝ者甚だ多しと云ふ之れ此地は地層岩石にして井底は悉く岩石を以て成り此岩上地表面より浸透せる僅少なる流水の停留せるを使用するものなるを以て凡て甚しき鹽分を含み水質甚だ不良なるに基因すと云ふ又在留日本人三十七人にして內二名は「モルヒ子」販賣嫌疑者として一名は賭博嫌疑者なり目下嚴密に偵察中なり而して在留婦人は凡て有夫者にして別段密賣婦なし尙生活上に就ては官民共に格外の贅澤を爲すものあるを見聞せず何れも自炊又は韓人より一食十錢內外の賄を受け居るの有樣にして寧ろ經濟を旨とせるは感ずべきことなり(完)

●仁川臨時民會

仁川居留民團にては本日左の諸件に就き臨時民會を開く筈

一 仁川港名所面花村里前面干潟地埋立に關する件

二 仁川居留民團基本財產管理規則制定の件

三 一時借入金に關する件

四 四十一年度歲入出追加豫算

五 寄附金報告

等にして尙ほ租界地外土地稅に關する件に付協議する筈なり

●仁川檢疫問題交涉

仁川入港の船舶に對する檢疫は檢疫の手續並檢疫官の怠慢の爲め非常に遲延し之れが爲めに荷客の受くる損害甚だしきを以て仁川會議所書記長荻谷籌夫氏は本日上京長濱關稅局長と會見し改正方針につき具陳する所ある筈

●仁川商況

●正米は弱含み連日午小口物相當の出荷あると庫入品も依然弗々市場に賣出さるゝより兎角人氣引立不申一般市況弱含みを呈し居り候▲糯米は品かすれ濁酒の元料とする爲韓人側重なる筋の買手は相當に有之候得共昨今入落皆無の姿にて一般品不足を唱へ居候▲大豆は保合下落に下落を重ね大豆相場も品一日來一寸上品の入荷途絶ゐ居ると本邦各地より弗々注文も有之其れや是れやにて相場も爰一寸行止りしやの觀あるも弗々取引行はれ居候本日入津物は長端四百俵裸五圓六十錢にて商出來申候▲小豆も暴落望手者無の折柄過日大口の入津物ありし爲尙更に人氣挫き相場は俄然七八拾錢方暴落仕候▲小麥は三十錢安昨今弗々入荷有之候得ども進で望みて無き爲め人氣惡しく相場も三十錢方下落仕居候▲牛皮は保合依然內地不引合の爲め人氣引立ち不申至極不況を呈し居候相場十斤物二十圓見當なれども抄々しき取引無之候▲昨今出來値を揚ぐれば左の如くに御座候

▲清白石拔十六圓二十錢、壹等十五圓二十錢、白米の上十二圓十錢、玄米改良十圓八十錢▲粗無毛五圓五十錢、同上五圓二十錢▲大豆龍山六圓、同長端五圓八十錢▲小豆赤上六圓七十錢▲綠豆上六圓五十錢▲小麥極上七圓五十錢▲荏胡上五圓三十錢

●小豆の暴落

別項記載の如く常に七圓三十錢內外を上下し來りし小豆が一昨日より急速の下落を呈し昨日に至つては六圓四五十錢てふ安値にて取引されたるが其理由は昨今阪地相場崩落の爲め輸出皆無なるに過日大口の入津ありたる爲め急に前記の如き暴落を來したる譯にて尙地方に於ける小豆の消費額は極めて少額なれば當分恢復の見込なかるべしと

●水原の衞生

水原警察署管內五月中に於ける衞生狀況左の如し

一、種痘認許員の接種せし初痘兒數男一千〇四十一名女七百十二名合計一千七百五十三名にして成蹟調査中なり

一、酌婦健康五、十五、二十五日の三回に於て酌婦健康診斷延總數三十九人內十八人子宮淋一人の陰皮擦過創を發見

一、監獄病四十名內消化器病六名皮膚病四名なり

一、淸涼飲料水店頭放賣の淸涼飲料水に對し取締を嚴行し混濁沈澱物の檢査を爲すこととせり

其他吏員居留民一般に健康にあり特種の疾患なし韓國入患者近日日本醫の治療を受くる者增加の傾向あり

●水產調査委員囑託

農商工部は本月より全國の水產調査第二期の計畫に着手したる事は既報の如くなるが調査委員中同部に在る技師は既に兩三日前夫れ〻受持區域に向つて出張し尙兩三名は近々出發する筈にて此の他各理事廳及水產組合に在勤の技術家も委員に囑托する事となり目下交涉中にして近々任命せらるべしと云ふ

●庵原技師の出張

庵原農商工部技師は別項記載の全國水產調査事務監督のため釜山方面に向ひ近々出張する筈にして尙此の巡視を終へたる上は釜山より豆滿江に至る北韓沿海地方をも巡視すべしと聞く

●丹羽清二郎氏

曾て京都同志社の校長たりし現東京基督教青年會幹事丹羽清二郎氏は鐵道青年會事業視察の爲來韓目下龍山鐵道本部に滯在中なり

●大塚素氏

過日來龍山鐵道本部の事業を授けつゝありたる同氏は昨日大連に向つて出發せられたり

●韓官任命

八日左の如く任命

任檢事叙奏任官二等 氏野德太郎

任判事叙奏任官三等 鮎川元恭

高島吾八

遂元康丸

勝付益吉

任裁判所繙譯官叙奏任官四等 清水三男

公人私人

▲佐々熊太郎(東亞煙草會社長)は一昨日平壤へ向け出發

▲本田幸介(水原模範農場長)昨日歸場

▲小松悅二(讀賣新聞記者)昨日來京不知火旅館

▲丸山理平(平壤民團議員)一昨日入京三日月旅館

▲澁谷太吉(海州農工銀行支配人)一昨日入京沖野屋

▲元木直(平壤地方裁判所長)一昨日入京天眞樓

▲勅使河原鍵之助(公州地方裁判所長)同上

●興寶の擊退

慶尙北道興寶より安東に連絡の爲め出したる兵卒は六月四日興寶の西約二里に於て約六十の賊に出會し之を擊退し六を殪せり

●賊八十と遭遇す

慶尙南道河東守備隊より派遣せし下士以下七名は本月四日河東東北約四里に於て約八十の賊に遭遇し之を潰走せしむ賊の死傷多數我兵一名微傷す

●巡查賊を討つ

平安南道順川駐在所巡查は五月廿九日孟山郡內に於て約四十の賊を討ち其四を殪し若干を傷け一名を捕ふ

●發火演習

步兵第五十聯隊第四中隊は來る十二日午前九時三十分より午後二時に至る迄光熙門外往十里南方約五百米突の地點に於て空砲發火演習を施行する由

●近事片々

▲太皇帝頃日恙あり侍醫士輪回診察せらる國事多難御軫念多きが爲か速に回復を祈る

▲宋氏內相となり意氣頗る揚ると聞く小康に得意となる者小禍に失望落膽する者也

▲一說には宋氏の裏面に黑幕ありて一々宋を指揮せる也と斯る魂膽あるかも知れぬ

▲黑幕何人ぞ知る人ぞ知る傀儡師佛を出そうか鬼を出そうか言はぬ中が花なりかし

▲大臣異動と共に次官の異動するとの說もある或は一二部の異動は至當かも知れぬ

▲趙重應氏に頃日小祟り何ぞ多きや宮中の遠慮開進教育會長の辭職者止なき事情有の

▲光岡氏憤激し鎌付胸倉採てコチの人悔しいわいなと痴話を際上に落さゝるや如何

▲一進會長李容九に何事か責められて趙氏頻に謝罪せりとの噂もある之れ異なりや

▲八間は好い時斗りはムらぬ時には禍難の續くこと有り趙氏たるもの落膽す可らず

▲一銀の市原君北韓及露領の觀察に上る遲れたりと雖も好擧觀察益する所多からむ

▲一銀の信用は南韓に傾き北韓に至りては其存在さへ知らぬ者多し大に勉むる要あり

▲城內の水汲商人獨立館に集合し同盟抗議を決議す其決議の流れとならず結構也

▲京城にては一の大問題なり此水汲の所論を聚らざるもの少し水道の御心して可也

▲曾根子頃日片瀨の別墅に山縣公を招待して閑談靄やかなりしと此間消息は面黑し

▲桂侯この妥協は濟み山公の御意も得たり借て是よりは繼任の順序なり慇懃待遠し

▲露國文豪チンチエンコ來る日本を見たる彼の眼には韓國の風光が如何に映ずるか

▲文豪チンチエンコ久しく京都にありて日本の風光に親み日本の眞髓を解せりと云ふ

▲韓國に於ける日本人を如何に觀察する乎公平なる眼光を以て世界に紹介せられよ

▲德富蘆花武州粕谷に半農的生活をなせるは人の知る所今や益々農事に勵精せりと

▲蘆花茫々頭髮梳らず破衣破帽宛然ヤスヤの老偉人トルストイたりとは借替たり

▲渠がエルサレムに順禮して露國にトルストイを訪ひて痛く老偉人の感化を受たり

▲大統領ルーズベルト來春任期滿了の上は亞弗利亞に猛獸狩をせんと何處迄も快活

▲樺太民政長官は人選に手間取りしが愈石川縣知事村上義雄氏任命さるゝ事となる

●魚類販賣機關設置取締法

韓國の漁業は國產中重要なる地位を占むる[illegible]

[illegible]其の設置及び營業方[illegible]する方針なりと云ふ

●開東學會總會

七日午後二時[illegible]

[illegible]し終て本會發成員の一人安昌鎬は起て左の[illegible]

[illegible]挨拶をたらしめんことを希望し茲に金一千[illegible]

●魚類販賣機關取締法

韓國の漁業は國産中重要なる地位を占むるものなるが其の漁獲物販賣の機關[illegible]水産會社又は魚市場ありて需要者供給者の仲介をなし居れるも此れに關しては無法律無取締の狀態に在りて其の設置及び營業方法に何等の制限なき結果或は市場を濫設す[illegible]數料を貪[illegible]の弊なきにしも非ざるを以て當局者は魚類販賣機關保護取締に關する法を制定發布する方針なりと云ふ

●關東學會總會

七日午後二時礴洞普成[illegible]者五十名先づ前會の錄選任及寄附金現在高の報告をなし而して特に評議員四名を選任し[illegible]演說をなし午後四時十分閉會せり　諸君御承知の如く此の會は從に金錢[illegible]月を空過する時にあらず本會の設立を[illegible]新學問を勉强し本會を以て先進者たりし終て本會發成員の一人安昌鎬氏起て左の[illegible]提綱者たらしめんことを希望し茲に會[illegible]一千[illegible]圓を捐助すと云々

雜報

●光岡右夫人

趙君重應氏は久し振りにて京城に歸りぬ、十年の歳月を日本に送りたる身は何事も日本慣れて食物さへ朝鮮の辛味（蒜）の薫り昔日の嗜好を忘れ今は却て身につくに至り況して温突住ひをや茲に於てか南山町の某下宿屋の一階を借り受け住ひすることゝなりぬ然るに母は何處迄も昔氣質我子の風俗嗜好が日本化したることを察せず早く家に來れかしと催促するも趙君いかでや應ずべきズット反り身になりて温突は空氣の流通悪しく韓の食物は不潔なりと澄し込む、母は氣が氣でなし内には留守中に美目よき後妻をも娶り小供の世話までなさしめ、良人の歸國を今日か明日かと待焦れ居り今其人が歸り來るも家には寄付かず不絶淚にかきくれ居る有樣を見る母は我子の無情を歎じて或日の如きはしみ〴〵と意見せしに趙君は却て立腹して我は日本の都に言替したる女あり云々と母は我子の替り果てたる根性に返す言葉もなく其儘にりにけり偖も其後去る程に戀しき光岡竹子より久しく便りなきは外に増花でも出來たるにやとの怨みがましき手紙來る歸國以來夢にも忘れぬ其女よりの音信殊に只今我を慕ふの文面矢も楯も堪らぬ程なりしも當時の趙君は未だ職業に有附かず今呼び寄せても苦勞をさせるのみ今暫らく辛抱さするの外なしと文細やさしく認め必ず近きに呼び迎ふべしとなだめ慰むるの書狀を差出したりき竹子は之を見るや良人の心の變りなきを喜び妾の見立は矢張り違はぬ韓國人とて同じ事、早く呼び迎へられて傍に侍き和館内の如き子供でも産まば嘸ぞや嬉しからむと甘き夢心趙君よりの音信頻に絕へたれば如何にせしなに西の空を眺めてあ焦がるゝのみ、其後や若しや病にでも冒されしかと女氣の只心配するのみ、樣子を聞かうにも五百里の山河へだつ翼のあるものならば飛び行かむものをと只々氣を揉むのみなりき、此時趙君は水原模範農場技手の職に漸く有附かず居で糊口は出來ると一先づ胸を撫で下ろしより竹子に知らして喜ばしめむと思ひしが待しばし此僅か計りの月給にては呼び迎へるも覺束かはし今少し前途の摸樣を見んと差へ控へ居りき、偶然にも幸福は頭上に落下し來りぬ（つゞく）

●右夫人光岡面目を失ふ

商法部大臣現農商工部大臣趙重應の室即ち右夫人韓皇后贊講光岡竹子は其身分如何なるものかも顧みず自らは韓國大臣の右夫人皇后の贊講なりと鼻高々と上流婦人の間に立ちて臆面も交際し又は宮と共に手を携へて巡査に護衛させ稠人の中を揚々として闊歩するなど本邦婦人の面目を辱しむること少からざりしかは本紙は同人を婦人交際場裡より驅逐せんことを警告したること數多度なりしも彼右夫人は恬として顧みず伊藤統監は大に察する所ありしと見へ趙重應を招き大に面責し今後濫りに宮中に出入する事を止め光岡夫人の參内を止め同夫人を携へて公開の席に臨む如きは遠慮すべしと訓飭されたりと同時に右夫人の門票を返納せしめられたり而して宮中に於ては皇后の贊講を罷められ大に面目玉を踏み潰すに至れり

●鎭南浦の狂犬病（か）

鎭南浦警察署より昨日内部衛生局に宛て「同日狂犬のため韓人九名日人三名咬まる大韓醫院に豫防注射を行ふや」との電報あり同局より大韓醫院に交涉中なるが右は果して狂犬病なるや否電文簡にして明かならざるも若し狂犬病なりとせば危險甚しきを以て衛生局にては詳細調査中なりと云ふ

●一圓の謝禮

御成町七十九番地河逸會賤（六十）は昨九日南大門停車場構内に於て十圓紙幣一枚五圓紙幣五枚總計三十五圓拾得せしを以て其の旨早速所轄警察所に屆出でしが頃で龍山鐵道管理局員加藤四郎なるもの出頭し自分は南大門停車場に於て金三十五圓を遺失せしこと確實なるが拾得者のれ分りになり居らずやと質したりし故警官も金員の種類等に就て訊問せしに正にソレに相違なければ即時に右の金員を返戾せしが其の際加藤は河逸に向つて一圓を謝禮として與へたりといふ

●隣は火事で隣はドンヂワン

去る七日午後十時頃南署水下洞居朴聖德居宅より出火數千圓の損害を蒙りたることは前號に報せしが此出火の際隣家に於ては數多の妓生を招き知人等打寄りドンチヤンクワンチヤンピードン〳〵鉦太鼓を敲き一大酒宴を開き大に興に入り居りしかば隣家は火事の最中なるにも拘らず火事は向ふ岸だと云はんばかりに何の遠慮もなく妓生を取つ捉かまへてヨボトウハンボンなど浮かれ止めざるにぞ出張の巡査も不埒の者共かなと大に其不心得を責めたれば折角醉ふた醉も醒め果て妓生も共にシホ〳〵と何處へか逃げ去りたりとのことなり

●石を投付けて藥代を拂ふ

福岡縣京都郡小波瀨村平民仁川港平洞居留鐵道工夫中園圓治（三二）は目下柾蜆驛新線工事中の事とて韓人夫を使役し督勵し居りしが韓人夫速文必が作業を怠り居るを見て業を沸し石を投付けたるに間が惡くも右腿上部に當りて出血したる騷ぎに警官の出張をまで煩はすに至りしが事さて藥代を出して無事示濟みとなりたりと云ふ

●提灯を破りて目玉

長谷川町二丁目菓子商松本政次郎（三十）と云ふ男は昨日午前二時頃何か癪に觸りしか同町にて石井洞十九統十三戸人力車夫崔永化（五十）なる者の提灯を打破りたるにぞ崔はアイゴーと目を丸るくして此旨警官に訴へ出でれば警官は之を取調べたるに同人は何處で飲んだか非常に酩酊し居るにぞ相當の賠償をなすべく懇々說諭の上將來を戒て放還されたりと云ふ

●俗調●　吉崎御坊

親がありやこそ肩身も廣く　更衣して學校ゆき

主の軒端にかけても見たい　粹な窓搆の青簾

目を愛して夜は更しても　目には目のない人もある

●金に迫りて自殺す

西署皇華坊館井洞居住朱昌秀（五十）は平素より氣の小さき男なるが何にさま家族の多數なるに加へて近頃の不景氣に商賣もメッキリ寂れ從つて隨分と諸所方々に不義理の借金出來しを苦にし一昨八日午後一時頃多量の阿片を飲用して終に寂滅しだるが後に殘りし家族の悲觀は外の見る眼も氣の毒なりしといふ

●腸窒扶斯發生

西大門外竹添町九番戸醫師近藤泰太郎氏方書生某は去四日腸窒扶斯に罹りたるを以て直ちに避病院に收容せられたり

●秋山商店の夏衣賣出し

當地郵便局前秋山商店にては夏物の荷揃せしを以て八日より一割引にて夏衣の大賣出しをなし居れるが非常の好況なり

●景品付の兒帶賣出し

今回大阪市東區平野町四丁目山城屋に於ては業務擴張紀念として衛生靴縮緬兒帶の破價賣出しを開始し姉妹に景品付の上ほかきにて注文せば引換に包の便法に利用し發品し來たる由にて顧客の好評を得しつゝありと云ふ

●男女の秘密十五版發行

東京市神田區駿河臺盛文館書房にて發行の米國醫學博士ホリック氏著色情衛生男女の秘密は米國にて大好評を博し五百版の多きを累ねたるものにて男女生殖器上の說明と色情衛生との說明に重きを置きて男女道の神秘を最も眞面目に忌憚なく解釋せし者にて發行以來旬日ならざるに三萬部を賣盡し今又第十五版を發行したるが裝釘優美にして一冊の代價は送費共五十四錢なりと

ビール

●取消●

左の如く申込みありたり

本日發行の新聞雜報記事中本官は統監府令夫人の甥云々市街鐵道より告訴せられたり云々と記載あるも當無根にして甥にもあらず告訴せらるゝの事實もなし右全文を掲げ御取消相成度候也　六月七日

平原林文太郎

京城新報社御中

（平）（民）（文）（庫）

▲鐵管印刷部の監督何某の細君が三味線イチリに浮身を窶して居ると投書したものがある二人並あつたが中傷も又甚しいと云ふねばならぬ其ノ君は現下子宮内膜炎で病褥に呻吟して居る三味線の稽古所ではない（注意生）▲錢湯に浴して最も不快を感ずるは入浴者の多くが無遠慮に流しの中央に仁王立ちになつて水や湯を浴びるが他人の迷惑となることであるから自ら省みて注意すべきである（田舍者）▲僕は天麩羅が非常に好物ですが京城には美味いと思ふのがありません（駄目太）▲美洞憲兵分遣所の横丁は宛然新吉原は稻荷町新道の体裁と御坐い其筋とやらでは知らないのかしら（岳檢志照）▲韓國側で塵芥掃除に頓着せぬから何程我々日本人側で清潔法を施行しても無駄だ何んとか交涉の方法はないのかしら（青葉生）▲關稅局から發行せられた韓國外國貿易概況には砂糖を『奢侈品』中に清酒を『生活に要するもの』の中に編入してある妙な分類法と言はれる（解版小僧）▲明治町一丁目たのみの石田様に御座るハイカラさんのれ名前御存じの御方は教へて下さい（女子通行生）▲山口呉服店に此間私しが買物に行きましたら年の頃三十二三の番頭さんが柄を見せらんとか何んとか散々私しを嘲弄しれましけに目玉を喰ひました皆な山口の番頭さんにはあんなにれしゐてあるんでしょうか御主人さんにれ尋ね致します（一女子）

●天氣豫報（自九日午後六時 至十日午後六時）

南又は西の風晴れ後曇り

●九日午前六時各地氣象概況●

各地の風吹き西海岸晴其他は概ね曇天なり

廣告

業務擴張廣告

山來辯護訴訟鑑定の依頼に應じ居候處爾今一層業務の擴張を圖り熱心と誠實を旨とし事務取扱候間御用命あらんことを希望仕候

一民刑事辯護、訴訟鑑定、其他請求事件

本宅 京城旭町一丁目 電話四七五番

事務所 本町一丁目南部警察署前

辯護士 莊子斌

大東產婆看護婦會

永樂町三丁目五十五番戸

產婆 大島すみ

同 岡上君代

電話（三四）阿比留氏取次

解雇廣告

田中富藏

右の者都合により解雇致候に付今般當店に於て一切關係無之候條此段謹告候也

京城本町五丁目

山枝吳服店（電話二二四番）

月刊 朝鮮

毎月一回 一日發行 定價廿錢 郵稅一錢 一切前金

京城本町二丁目 日韓書房

●土木工事之測量及設計

●鑛山村野土地之測量及製圖

●土木工事之監督及請負

京城旭町二丁目百十一番戸（理事廳横通白耳義領事館前）

片村工務所

所主 片村龜次郎

速成新法 琴曲（音樂）教授

南山町三丁目九十六番戸

○通日 ○通夜

琴曲教場 いさう

染物並洗張

迅速叮嚀を旨とし染色艶麗にして確實なるは本工場の特有なり

龍山元町四丁目（元今村跡）

桑澤工場

被服購買廣告

一巡査冬服京千參百六拾組外四種六月廿六日迄ニ購買ス

詳細ハ本月九日官報ヲ熟覽ノ事

隆熙貳年六月九日

内部

▲既設電話讓たし　姓名在社▼

公告

當會議所議員半數改選期ニ付來ル十一日ヨリ十三日ニ至ル三日間當會議所内ニ於テ毎日午前九時ヨリ午後四時迄選擧及ビ被選擧人名簿ヲ縱覽ニ供ス

明治四十一年六月十日

京城日本人商業會議所

夏衣大賣出し

六月八日ヨリ一五日マデ

正價より一割引

吳服 和洋反物 太物 蚊帳 蒲團

（あ）京城郵便局前

秋山商店（電話九四六番）

支店設置廣告

初夏の候各位御多祥奉慶賀候弊酒儀多年御愛用御懇命を蒙り居候處今般一層各位の御便益を相計り左記に支店設置致候間多々増々御愛用奉願候 早々

月 日

商標　名酒　千代田　國威輝四海　千歳清酒會社

堺市

釀造元 千歳清酒會社

韓國發賣元

京城南大門外

千歳京城支店

西の宮お樂の述懐（九）

◎買喰が不見轉の基

諸所に借金が出來て融通が付か無くなつたからには違ひありませんがイザ不見轉をやらうといふ氣になつた原因は眞實お咄になりませんソレは／＼下らない事からなんで……買喰が好きなもんでしたからツイ近所の菓子屋さんに四十五錢程借金が出來て了つて……ソレも一人なら宜うムいますが前にも申し上げた朋輩藝妓と二人掛りなんですから氣が利かないぢやアありませんか其處でお坐敷の歸りがけに『チーお前さん彼所の家へもお菓子代が四十五錢程溜つたがお坐敷へ往き歸りの度毎に前を通るので何だか氣が引けて堪らないワ早く拂つちまいたいと思つて居るんだが御同樣ピー／＼で逆さにしても鼻血も出ないとお出でなすつてるのだから仕樣がありアしない、何とかよい工夫は無いかすね』と妾が相談を掛けて見ると其の友達も『困つちまつたチ此の頃ぢやア一六銀行へ預ける質草は何一ッだつてありやアしないし……ソウかといつて拂はなけりやア成程お前さんのいふ通り極りが惡くッてあの前は通れやしない……ア、誰か金の百圓も呉れる人がありャア宜いが』『ソンナ馬鹿氣たことをいつたッて仕樣がないが彼處へ拂ふ丈の四十五錢で宜いから欲しいわチ……お客に縋がッて……といつた所でお前さんにしろ妾にしろ此れ迄手の届くだけは荒し切つてるのだからチ……ソウかと言つて始めての人にお金を借して下さいナともいはれずサ……』『背に腹は替へられぬといふことがあるから……心を入れ更ゑて不見轉のお仲間入りと出掛けて見樣ぢやないか』『ソウすりやア何分のお金が掴めるが……』『ソリやアお金は這入るかも知れないが……今迄堅いで通して來た手前に對しても……』『ソコを妾も思はないぢやないが外に宜い考も出ないのだから……やるにしても無論極の秘密で拂の金さへ取つたら一度で廢しつちまうのサ』『ソウサ一度ッ切りの不見轉なら知れる氣遣ひもなからうから度胸を据へてソウ仕樣か』『併しやるんなら二人一緒で無きあ厭だよ』『ソリや無論さ』といふ工合にしまするとと明る晩あるお茶屋さんから口がかゝつて參りましたので往つて見ると其藝妓が先に居て『一寸顏を』と私を廊下へ呼び出しますから『ハア』といつて立ち上り『何か用なの』と其所へ參りますと『昨晩相談をした不見轉で開業式を今日からいよ／＼實行』といふのでムいます、サテ腹は極めたといふものゝサアとなると何だか私は二の足になりましたが其の藝妓に『仕方がないわ』といはれて見ると眞逆に逃げられもせず其の積りになつて坐敷に歸りお客の顏を見るといよ／＼厭氣がさして了ひましたお客といふは二人共軍人さんでしたが何ち等も顏の惡い飲み助なんでムいますよ（續）